

厚生省から血友病以外の治療でも非加熱製剤を使っていた病院の発表があり、県内からも6つの病院が公表されました。

病気を治してもらうために病院に行き、その薬でエイズに感染するなんて全く信じられないことです。それを知っていてやっていたとするならば言語道断です。

患者は医師に全幅の信頼を置き、治療では文字通り病院に命を預けます。その病院に自分たちの利益と都合だけで危険な薬を配布していた、製薬会社と厚生省に我々はどう制裁を加えたらいいのでしょうか。怒りはおさまりません。

< 第 1 6 回 ほほえみの会 >

今回も新会員3人を含む10数人が参加しました。冒頭先生の方から、この会にずっと同席しない方が医療者への意見が出しやすいのではないかとのお話がありました。が、医療の進歩が激しい今、いていただいてその都度わからないことを教えていただいた方がいいということになりました。もちろん忙しいときには同席できないということですが、もし医療者への不満などありましたら遠慮なく代表までお話下さい。悩みを一人のものと思わずみんなで考えましょう。そのための会でもあるのですから。

入院中、子供ににストレスがたまり、先生や看護婦さんにも物を投げる、噛みつく、蹴飛ばすということがあり、心配しているという声がありました。

これに対し、子供は入院中は大なり小なりストレスの発散でわがままを言って乱暴なことをすることはあるのであまり気にしなくていいのではないかと。また、泣いて暴れることが唯一自分のストレスのはけ口であり、そうすることで周囲に自分を隠さずさらけ出し、前向きにもなるのではないかという意見も出されました。

また、親の心配をよそに子供は子供なりに十分しっかりして子供同士で助け合ったり、励まし合ったりしている。子供の柔軟性には親が学ぶことも多いという声もありました。

骨髄移植を待っているが身内で適合者がおらず、骨髄バンクでドナーを待っている方も出席されました。自宅が下田のため、子供と一緒に病院近くにアパートを借り、昼間はパートをしているということです。父と祖母が下田にいて外泊の時だけ自宅に戻るとのことですが、治療が長引くと精神的にも経済的にも大変だとのこと。

今15歳以下の子供には慢性疾患の医療費控除が受けられます。昭和46年からの制度だそうです。親にとっては大助かりです。しかし、子供が入院していると医療費以外の出費がかさむのも現実です。

放射線治療に対する不安の声もありました。成長が止まったり、知能の発達に影響があったりということも聞きますが、とりあえずは目の前の壁を乗り越えることが大事でしょう。治療の前から悪く考えるのは良くないという話もできました。

次回「ほほえみの会」は 11月10日(日)です。同封しました「のぞみの会」静岡支部会と日程が重なりましたが、予定通り「こども病院新館3階」で12時から開催します。

6月の総会で白いベルトの忘れ物がありました。預かっています。